

令和4年度取組状況

ものづくり工学科 電気電子工学コース

准教授 石崎明男

取組状況	
教育	<p>【授業】学習者中心、知識中心、評価中心、共同体中心の授業を実践した。授業のかなりの時間を割いて、(教員・学生間、または学生同士の)質疑応答、アウトプット(知識活用、知識の組み合わせ)、リフレクション(結果の精査、問題発見、改善)、ディスカッション(異なる意見への共感、反論、意思決定)といった、アクティブ・ラーニングの要素を盛り込んだ授業を行った。学び続けるためのスキルを身につけるトレーニングになったと考えている。今年度は、昨年度本格導入したCBTに、問題詳解とゲーミフィケーション要素を加えた。出題(スモールステップ化、ランダムイズ)、採点(maximalによる数式評価)、結果記録、統計処理は自動化され、小テストを行うための管理作業を大幅に削減できた。なお、LMSの利用は、今年度の卒業生アンケートでも、約4割の学生から支持されている。これは全項目中5番目の支持率である。LMSの活用は、学生の管理作業も軽減することから、多くの学生から支持されたと考えている。次年度のCBTでは、ゲーミフィケーションのチューンナップと、典型的誤答への原因指摘を加えたい。</p> <p>【進路指導】本年度の5年生の国公立大学への進学実績は近年で最も少なかった。昨年度よりそのような傾向があったため、4年生向け進路指導では、例年より時間をかけて取り組んだ。具体的には、進学ガイダンス、進学補講、進学ページの内容充実、学生からの相談対応である。補講への出席者はここ数年よりも多かったものの、年度末の進路希望調査では、学力試験の希望者は少なかった。成績上位5名は皆推薦入試を選択していた。次年度は担任・副担任と協力して4年生の進路指導の時間を増やし、進路についてもっと考えてもらうようにしたい。</p> <p>【コース広報】コースのホームページを刷新した。企画者の一人として、ターゲットユーザ、ページコンテンツ、ページ階層、各ページレイアウトなどを検討した。また、ページ作成者として記事の執筆依頼、記事編集、ウェブページ的设计製作を行った。これが一因となり、昨年度よりも、コース希望者が増えたと考えている。今後は、ランニングコストをかけずに運用していきたい。</p> <p>【ICT活用】LMSのソフトウェアをアップグレードした。また、活用方法に関する講習会を行った。内容は「総合評価のLMSでの公開」である。これを行うことで、何人もの学生から現在の得点を問われることがなくなる。次年度も活用事例の紹介などを行い、コース教員にLMSの利用をさらに促していきたい。</p>
研究	
社会貢献	